令和５年度　国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

１ 結果のポイント

・全体結果

対象生徒数	平均正答率（%）
国東市（180 人）	**69**
大分県（公立 8,618 人）	69
全国（公立 892,738 人）	69.8

・分類別結果

分類		区分	平均正答率（%）		
			国東市	大分県	全国
学習指導要領の内容	知識及び技能	（１）言葉の特徴や使い方に関する事項	**62.8**	65.2	67.5
		（２）情報の扱い方に関する事項	**64.2**	62.6	63.4
		（３）我が国の言語文化に関する事項	**80.2**	76.4	74.7
	思考力・判断力・表現力等	Ａ　話すこと・聞くこと	**83.0**	81.4	82.2
		Ｂ　書くこと	**57.5**	60.1	63.2
		Ｃ　読むこと	**63.9**	62.2	63.7
評価の観点		知識・技能	**70.6**	69.3	69.4
		思考・判断・表現	**68.8**	68.1	69.7
		主体的に学習に取り組む態度	**－**	－	－
問題形式		選択式	**72.8**	71.9	73.1
		短答式	**65.0**	65.2	65.6
		記述式	**68.1**	66.6	68.0

・平均正答率での全国平均との比較では、差が-0.8 ポイントで全国平均を下回った。

・内容別の全国平均との差は「言葉の特徴や使い方に関する事項」で－4.7 ポイント、「情報の扱い方に関する事項」で＋0.8 ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」で＋5.5 ポイント、「話すこと・聞くこと」で＋0.8 ポイント、「書くこと」で－5.7 ポイント、「読むこと」で＋0.2 ポイントであった。

２ 課題が見られた問題と指導の改善事項

3　レポートを書く（「判じ絵」）

設問一

①趣旨

◆読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第１学年〕思考力、判断力、表現力等　　Ｂ 書くこと

エ　読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。《推敲》

②解答類型と反応率

3 一　　生徒数の割合

問題の概要	国東市	全国
レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する。		
1　１と解答しているもの	3.3	3.7
2　２と解答しているもの	13.9	12.5
3　３と解答しているもの	33.9	28.9
◎4　４と解答しているもの	47.2	54.3
5　上記以外の解答	0.0	0.0
6　無解答	1.7	0.6

◎は正解

◆分析と課題

○解答類型１～３の反応率の合計は５１．１％である。このように解答した生徒は、読み手の立場に立って、語句の用法や叙述の仕方を確かめて、文章を整えることに課題がある。「もち」を「もったため」に直すことで、「ため」の前後の関係が「原因と結果」の関係になることを十分に理解しておらず、どのようなことを明確にしようとしたのかという推敲の意図を捉えることができなかったものと考えられる。

③学習指導に当たって

読み手の立場に立ち、叙述の仕方などを確かめて文章を整える

書いた文章を推敲する際には、伝えようとすることが伝わるように、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導することが引き続き大切である。その際、第１学年〔知識及び技能〕の(1)エの「指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。」や(2)「ア原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。」などとの関連を図り、学習した知識を観点として文章を読み返すように指導することが有効である。

例えば、推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習活動が考えられる。その際、叙述の仕方などを直したことで、伝えようとすることが十分に書き表されているかなどを、読み手の立場に立って確かめることが重要である。

設問二

①趣旨

◆文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第２学年〕知識及び技能

⑴　言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ　第１学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち 350 字程度から 450

字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。《漢字》

②解答類型と反応率

3 二　　生徒数の割合

問題の概要	国東市	全国
漢字を書く（おし量って）		
◎１　「推（し）」と解答しているもの	35.0	43.9
２　上記以外の解答	51.1	45.4
３　無解答	13.9	10.7

◎は正解

◆分析と課題

〇解答類型２について、「押」や「進」、「椎」などという誤答が見られ、その多くが「押」という解答であった。このように解答した生徒は、「推し量る」という言葉になじみがないなど、文脈に即して「おし」の意味を捉えることができず、同じ訓をもつ「押」と書いたものと考えられる。

③学習指導に当たって

漢字を正しく用いる態度と習慣を養う

漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切である。

漢字の書きについては、小学校学習指導要領第２章第１節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字 1,026 字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのため、文章の中ばかりではなく、「Ａ話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するよう指導することが大切である。また、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことも大切である。その際、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。さらに、１人１台端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に留意して、適切に選択する力を養うことが重要である。

なお、漢字の読みについては、学習指導要領の学年別漢字配当表に示されている漢字 1,026 字に加え、中学校修了までに学年別漢字配当表以外の常用漢字の大体を読むことを求めている。

設問三

①趣旨

◆具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第２学年〕知識及び技能

⑵ 情報の扱い方に関する事項

ア　意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。

《情報と情報との関係》

②解答類型と反応率

3 三　　生徒数の割合

問題の概要	国東市	全国
「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く （正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ①　内容のまとまりを分ける箇所として（ウ）を選んでいる。 ②　後半のまとまりに付ける見出しを、「『判じ絵』の歴史」、「『判じ絵』の起源と広がり」のように解答している。		
◎１　条件①、②を満たして解答しているもの	56.7	61.8
２　条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	11.7	11.4
３　条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	7.8	5.9
４　上記以外の解答	22.2	18.8
５　無解答	1.7	2.1

◎は正解

◆分析と課題

○ 解答類型２について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）
・（分ける箇所）ウ、（見出し）（無解答）
・（分ける箇所）ウ、（見出し）「判じ絵」について
・（分ける箇所）ウ、（見出し）江戸時代の文化

このように解答した生徒は、「■『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章を内容のまとまりで適切に分けることはできているが、（ウ）以降の内容に共通する要素を抽出し、見出しを考えて書くことができていない。文章の（ウ）よりも前の部分を含めたり、（ウ）以降の文章の一部分のみに着目したりして見出しを考えたものとも考えられる。

○ 解答類型３について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）
・（分ける箇所）エ、（見出し）「判じ絵」の歴史

このように解答した生徒は、「■『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた文章の後半のまとまりにふさわしい見出しを考えて書いているが、内容のまとまりで適切に分けることができていない。

③学習指導に当たって

具体と抽象など情報と情報との関係について理解する

具体と抽象の関係を理解するためには、それぞれの言葉の意味を捉えた上で、具体と抽象が、状況や必要に応じて使い分けられていることを理解することが重要である。具体とは、物事などを明確な形や内容で示したものであり、抽象とは、いくつかの事物や表象に共通する要素を抜き出して示したものである。これらのことを踏まえ、例えば、具体は例示の際など、抽象は共通する要素をまとめる際などに使われていることを、身の回りの事例と結び付けながら捉えることができるように指導することが大切である。その際、第２学年〔知識及び技能〕の(1)「エ抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。」や、第２学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「Ｂ書くこと」の(1)「イ伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。」などとの関連を図り、具体と抽象の意味や関係を、語句の意味や自分が伝えようとする情報と結び付けて考えることができるように指導することが有効である。

例えば、事実や調べたことを基に自分が考えたことを伝える文章を書く際に、段落相互の関係を具体と抽象の関係という観点で見直し、文章の構成や展開を検討したり、内容で分けた文章のまとまりに小見出しを付けたりする学習活動などが考えられる。

設問四

①趣旨

◆自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第１学年〕思考力、判断力、表現力等　　Ｂ 書くこと

ウ　根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

《考えの形成、記述》

②解答類型と反応率

3 四　　生徒数の割合

問題の概要	国東市	全国
「『判じ絵』の解読の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解読の仕方を書く （正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ①　ＡとＢのいずれか一つの〈候補〉を選んで、その記号を塗り潰している。 ②　「【図３】は、」に適切に続くように書いている。 ③　選んだ〈候補〉について、解読の仕方を書いている。 （正答例）		

・A （【図３】は、）真ん中が消えている桜が描かれている。「さくら」という言葉の真ん中の「く」を消して解読すると、食事で使う「皿」という意味になる。 ・B （【図３】は、）「砂」という漢字が逆さまに書かれているので、漢字の読み方も逆にすると、野菜の「ナス」という意味になる。		
◎１　条件①、②を満たして解答しているもの	67.8	72.1
２　条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	13.9	12.2
３　条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	0.0	0.0
４　上記以外の解答	3.9	5.4
５　無解答	14.4	10.2

◎は正解

◆分析と課題

○ 解答類型２について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

（例）

・A

（【図３】は、）真ん中が消えている桜が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、「皿」という意味になる。

・B

（【図３】は、）「砂」という漢字が逆さに描かれているので、「ナス」という意味になる。

このように解答した生徒は、書いた説明の中に、選んだ「判じ絵」をどのように読み解くのかを示すことができていない。「判じ絵」の解読の面白さがより明確に伝わるようにするためには、根拠として【図２】とは異なる解読の仕方を文章の中に記述する必要があることを理解できていないものとも考えられる。

③学習指導に当たって

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く

レポートなど調べたことや考えたことを伝える文章を書く際には、伝えたいことが伝わる文章になるように、根拠を明確にすることが大切である。そのためには、まず、根拠が、考えや言動の拠り所となるものであることを理解する必要がある。その上で、自分の思いや考えを繰り返すだけではなく、根拠を文章の中に記述する必要があることを理解して書くことが重要である。その際、根拠として、複数の事例を示したり、専門的な立場からの知見を引用したりするなど、工夫して書くことができるよう指導することも大切である。

例えば、読み手に伝えたい自分の考えを明らかにした上で、複数の事例の中からどの事例を自分の考えを支える根拠として取り上げるのかを検討したり、根拠をどのように文章中に記述すると明確になるのかを吟味したりする学習活動が考えられる。